

科目名	コミュニケーション技術Ⅱ						
Course Name	Communication skills Ⅱ						
年次	1年	期別	後期	単位数	1	授業形態	演習
担当者氏名	大熊信成						
連絡先(質問等)	福祉棟 3F 研究室か、メールで対応。						
必修/選択	選択(介護福祉士養成課程必修)						
関連 DP	DP2、DP3、DP4						
授業の概要と到達目標	<p>「コミュニケーション技術Ⅱ」では、実習における利用者とのコミュニケーションを振り返り、自己のコミュニケーションの傾向について分析・評価する。また、コミュニケーション障害について理解したうえで、事例から利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際を学ぶ。さらに、介護におけるチームのコミュニケーションに必要な技術について学習する。</p> <p>①基礎実習Ⅰで作成したプロセスレコードを分析・評価し、自己の傾向および改善点に気づくことができるようにする。</p> <p>②コミュニケーション障害の原因と特徴について説明できるようにする。</p> <p>③障害の特性に応じたコミュニケーションの留意点について、説明できるようにする。</p> <p>④介護におけるチームのコミュニケーションの必要性について、説明できるようにする。</p> <p>⑤介護における記録と報告の要点を列挙できるようにする。</p>						
授業の方法	基礎実習Ⅰで作成したプロセスレコードをもとに、自己のコミュニケーションについて分析・評価をし、自己の傾向について考察を深める。コミュニケーション障害の事例をもとに、実習での体験もふまえ、利用者の特性に応じたコミュニケーションについて考える授業とする。						
学習成果	L01						
	L02	①プロセスレコードの分析・評価を通し、自己のコミュニケーション技術を向上することができる。 ②コミュニケーション障害の特徴を踏まえ、利用者とのコミュニケーション手段を選択し、円滑なコミュニケーションをとることができる。					
	L03	介護におけるチームのコミュニケーション技術を習得することができる。					
	L04						
課題に対するフィードバック	毎回の授業でリアクションペーパーを実施する。リアクションペーパーは振り返りを行い全員でシェアをする。また試験対策を行い、授業内で解答・解説を行う。						
教科書/参考図書	最新・介護福祉士養成講座 第5巻「コミュニケーション技術」中央法規出版 他 授業中に指示し、資料を配布する。※「コミュニケーション技術Ⅰ」で使用したテキストと同様。						
履修上の留意点やルール等	一部視聴覚教材を使用し、内容をレポートで確認する。目的意識・課題意識を明確にして授業に臨み、口頭で述べたこともきちんとノートにすること。遅刻・早退・私語・居眠りは厳禁。事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回45分とする。介護福祉士養成課程の学生のみ履修可。						
担当教員の実務経験							

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、明確な課題意識をもって授業に臨むことができる。これらを総合的に判断する。		20		
レポート/作品	提示するテーマについて自分の言葉で述べる事ができる。最高評価であるSは意欲的に課題に取り組んでおり、着手すべきテーマの趣旨に沿っていて、学習の成果が十分に示されている。		20		
発表					

小テスト					
試験	論述、選択記述式の定期試験を行い、評価する。論述は根拠(エビデンス)に基づき自分の言葉で述べられていること。			60	
その他					
合 計				40	60

回数		授業計画
1	授業内容	ガイダンス(授業概要と進め方・成績評価の方法など) 実習でのコミュニケーションの振り返り【演習】(基礎実習 I で作成したプロセスレコードを提出)
	事前・事後学習	プロセスレコードをまとめておくこと。提出すること。
2	授業内容	プロセスレコードの考察①【演習】
	事前・事後学習	各自プロセスレコードの発表を行う。振り返りを行うこと。
3	授業内容	プロセスレコードの考察②【演習とまとめ】(プロセスレコードの分析・評価を次回提出)
	事前・事後学習	各自プロセスレコードの発表を行う。振り返りを行うこと。
4	授業内容	コミュニケーション障害の理解、コミュニケーション障害のある利用者への対応【講義】
	事前・事後学習	コミュニケーション障害のある利用者への対応についてテキストを参照にしてノートにまとめること。
5	授業内容	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際① 高次脳機能障害【講義と演習】
	事前・事後学習	高次脳機能障害についてテキストを参照にしてノートにまとめること。
6	授業内容	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際② 失語症【講義と演習】
	事前・事後学習	失語症についてテキストを参照にしてノートにまとめること。
7	授業内容	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際③ 構音障害【講義と演習】
	事前・事後学習	構音障害についてテキストを参照にしてノートにまとめること。
8	授業内容	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際④ 認知症【講義と演習】
	事前・事後学習	認知症についてテキストを参照にしてノートにまとめること。
9	授業内容	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際⑤ 視力障害【講義と演習】
	事前・事後学習	視力障害についてテキストを参照にしてノートにまとめること。
10	授業内容	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際⑥ 聴力障害【講義と演習】
	事前・事後学習	聴力障害についてテキストを参照にしてノートにまとめること。
11	授業内容	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際⑦ 知的障害【講義と演習】
	事前・事後学習	知的障害についてテキストを参照にしてノートにまとめること。
12	授業内容	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際⑧ 発達障害【講義と演習】
	事前・事後学習	発達障害についてテキストを参照にしてノートにまとめること。
13	授業内容	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際⑨ 精神障害【講義と演習】
	事前・事後学習	精神障害についてテキストを参照にしてノートにまとめること。
14	授業内容	介護におけるチームのコミュニケーション① チームのコミュニケーション、介護における記録【講義】
	事前・事後学習	チームのコミュニケーションについて自己の体験を踏まえてノートにまとめておくこと。
15	授業内容	介護におけるチームのコミュニケーション② 報告・連絡・相談、チームにおける会議【講義と演習】
	事前・事後学習	会議の意義についてテキストを参照にしてノートにまとめること。